

<報道発表資料>

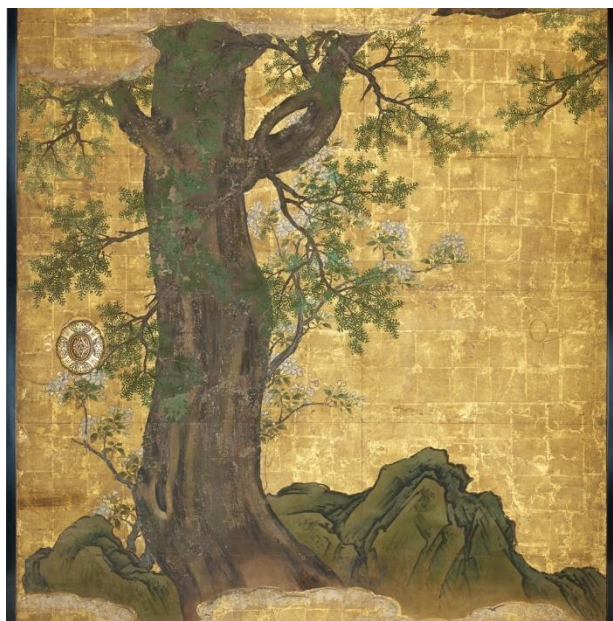
令和7年7月11日

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

そび 聳え立つ 檜 ひのき ～〈遠侍〉勅使の間（下段）～

二条城障壁画 展示収蔵館 原画公開 令和7年度夏期 シリーズ転調の花鳥

この度、夏期原画公開「聳え立つ檜 ～〈遠侍〉勅使の間(下段)～」の開催について詳細が決まりました。今回は、華やかさとともに威圧感をも醸し出す〈遠侍〉勅使の間の障壁画《楓檜桃小禽図》を公開します。



〈遠侍〉勅使の間(下段)障壁画《楓檜桃小禽図》西面（部分）

重要文化財（絵画）二条城二の丸御殿障壁画の大半は、徳川家三代将軍、家光（1604-51）の時代、寛永3年（1626）の大規模改修に伴い、狩野派の絵師たちによって描かれました。元離宮二条城では、「二条城障壁画 展示収蔵館」において、二の丸御殿障壁画（重要文化財）の原画を公開します。

今年度は、「シリーズ 転調の花鳥」として、二の丸御殿の各棟の北東にあたる部屋に描かれた障壁画に焦点を当てて紹介します。各棟の北東の部屋の障壁画は、他の部屋と共通しつつも、異なる特徴を持つ花鳥図が描かれています。

【事業概要】

- 会期 令和7年7月18日(金)～9月15日(月・祝)
- 入館時間 午前9時～午後4時30分(閉館は午後4時45分)※二条城の入城受付は、午後4時まで
- 場所 元離宮二条城内 二条城障壁画 展示収蔵館(〒604-8301 京都府京都市中京区二条城町541番地)
アクセス：地下鉄東西線「二条城前駅」又は JR 京都駅から市バス 9、50 号系統「二条城前」下車すぐ
- 入館料 100円(未就学児無料)※別途入城料が必要。※市内に在住・在学の小中学生、市内在住の70歳以上の方(敬老乗車証等で住所、年齢を確認できる方)、各種障害者手帳等をお持ちの方の入館料は、不要です。
- 公開作品 〈遠侍〉勅使の間(下段)障壁画《楓檜桃小禽図(かえでひのきもしょうきんず)》(障壁画面数：24面)
- 主催 京都市文化市民局元離宮二条城事務所



〈遠侍〉勅使の間障壁画《楓檜桃小禽図》南面(部分)



〈遠侍〉勅使の間障壁画《楓檜桃小禽図》西面(部分)

<解説と見所について>

現在「勅使の間」と呼ばれる対面所は、江戸時代は「殿上の間」と呼ばれました。〈遠侍〉の棟に「殿上の間」が設けられるのは、江戸城の本丸及び西の丸御殿、大坂城の本丸御殿とも共通します。「殿上の間」は、朝廷からの使いである勅使や院使が使用する部屋でした。

二条城二の丸御殿の〈遠侍〉と「勅使の間(殿上の間)」には、他の城と異なる大きな特徴が三つあります。まず、段違いに規模が大きいこと、次に「勅使の間(殿上の間)」の位置が北東に置かれていること、また格式を示す座敷飾の一つである帳台の間を伴っていることです。なぜこのような特徴があるのか、その理由を明確に示すことは難しいですが、京の城である二条城は、朝廷との交渉が他の城よりも頻繁かつ大規模に行われると想定されたからではないかと考えられます。

勅使の間の襖、腰障子、長押上には、春から初夏の花木が描かれています。筆者、狩野甚

之丞（1583～1628）は、狩野永徳（1543～90）の甥で、従兄の光信（1565～1608）の庇護を受けたとされます。曲線を描きながら長く伸びる桃や檜の枝や、檜の根元の曲線は、光信の描き方を踏まえたものです。最も目を引く檜の木立は、しっかりとした幹が天に向かって伸び上がり、金の雲を突き抜けて天井よりも高く聳え立ち、力強さや威圧感をも感じさせます。

明治 17 年（1884）、二条城は皇室の離宮となり大修理が行われました。損傷が進んでいた勅使の間の壁貼付 2 面と、腰障子貼付 5 面は、葦と 7 羽の鳥が省略されるなど、構図やモチーフが異なった形で補作されました。新たな画面は、二条城が離宮へと変わっていった来歴を物語っているのです。

<お問合せ先>

京都市文化市民局元離宮二条城事務所

電話：075-841-0096